

平成30年度入試【AO入試Ⅱ】

小論文

(人間科学部)

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は6ページです。解答用紙は4枚、下書き用紙は3枚です。
指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 4 答えは横書きとします。字数を指定したものは、句読点を字数に含めて数えてください。アラビア数字は2字で1字として計算してください。
- 5 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 6 試験終了後、問題紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

1

【A】

睡眠時間が作業効率に与える影響について調べるため、以下のような実験を行いました。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

図1 単純作業の間違い回数の変化

(出典: J Sleep Res 12巻, 1-12 ページより一部改変)

問 1

あなたが図 1 から読み取ったことを 3 項目挙げ、それぞれ 40 字以内で答えなさい。

問 2

この 13 日の実験が終了した直後、再び同じ被験者に同じ睡眠時間パターンでの実験を繰り返したと仮定すると、どのような結果になったと考えますか。200 字以内で考察しなさい。

【B】

図 2 は週労働時間別に、昼間の過度の眠気、疲労回復不全、短時間睡眠を訴える労働者の割合を示したものです。以下の問に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

図 2 労働時間と昼間の過度の眠気、疲労回復不全、短時間睡眠

(出典:労働安全衛生総合研究所 2007 年働き方と健康に関するアンケート調査)

注) 棒グラフ上の数字は各項目の数値を表す

問3

週労働時間 35～40 時間の短時間睡眠の割合と比較して週労働時間 66～70 時間の短時間睡眠の割合は何倍に増えますか。小数点2桁目を四捨五入して小数点1桁まで書きなさい。

問4

今、働き方改革として企業での長時間労働の是正が進められています。【A】の図1で示す実験結果、ならびに【B】の図2で示すアンケート結果から読み取れることをふまえて、労働時間と健康についてあなたの考えを400字以内で述べなさい。

2

ある研究者の問題関心の変遷に関する次の文章を読んで、問1～問3に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(柴田悠 (2017) 『子育て支援と経済成長』朝日新書より一部改変)

注1) ノーマライゼーション 1950年代にデンマークで提唱され、その後世界に広がった
社会保障・社会福祉の理念

注2) イエスタ・エスピン＝アンデルセン (1947年～) デンマーク出身の社会保障・社
会政策の研究者

問1

下線部Aの「適応はまさに『倫理的に善いもの』』とはどのようなことを指すのか、具体例を挙げて100字以内で説明しなさい。

問2

下線部Bの「適応概念の歴史から見出された北欧と英米の『社会保障の違い』』の意味するところを、筆者の意見に即して200字以内で説明しなさい。

問3

今後、日本はどのような社会を目指せばよいと考えるのか、あなたの意見を400字以上600字以内で述べなさい。その際、「適応」、「社会保障」、「税負担」というキーワードをそれぞれ必ず用いること。